

公園管理運営研究所における調査研究及び技術開発事業の実績
Results of 18-year Studies and Technical Development at the
Institute of Park Administration and Management

平松 玲治
Reiji HIRAMATSU

【要旨】

2006 年度に発足した公園管理運営研究所における 18 年間の調査研究及び技術開発の実績を整理した結果、研究事業では研究プロジェクトは延べ 113 件、研究論文等は 288 件、受託調査事業の受託件数は 75 件の実績が確認できた。研究内容は、社会的な課題への対応が 18 年間の研究事業で最も多く、観光・レクリエーションや少子高齢化・福祉・健康等の多様なテーマを実施してきたこと等が把握できた。今後の研究テーマは、社会的課題の解決、現場で発生した課題を解決するための調査研究や技術開発取り組みが求められる。また、今後の研究体制は、研究顧問や国内外の関連組織等の人的なネットワークからの助言や協力、公園の現場と当研究所が連携・協働して進めることが必要である。

【キーワード】

調査研究, 技術開発, 公園管理運営研究所, 事業実績

「公園文化 WEB」10年間の記録
The 10-year History of "Koen Bunka WEB"

川田 衣恵
Kinue KAWADA

【要旨】

本財団は、花みどりの普及啓発を目的とし、2014 年より「公園文化 WEB」を運営している。本稿では、10 年間の取り組みについてまとめ報告する。「公園文化 WEB」は、4 つのコンテンツからスタートし、年々数を増やすなど内容の充実に取り組み、2023 年度末には 12 コンテンツ、ページビュー数、約 16,000 と順調に増えている。一方で、昨今の電子化への対応や、さらなる有益な情報の受発信が課題となっている。

【キーワード】

公園文化, 公園文化WEB, 花みどり文化普及事業

海の中道海浜公園におけるインクルーシブな遊び場を目指した取組
Initiatives for inclusive playgrounds in Uminonakamichi Seaside Park

石井 裕子 柴田 隆一 伊東 和博
Yuko ISHII Ryuichi SHIBATA Kazuhiro ITO

【要旨】

本研究では、国営海の中道海浜公園におけるインクルーシブな遊び場づくりを目指した3つの取組について、その成果を整理・分析し、今後の方向性についてまとめた。1つ目は、大芝生広場売店を改修し「プレイカフェ」としてプレイスメイキングを図った取組、2つ目は実証実験「うみなかインクルーシブパーク」の実施と利用者アンケートによる分析、3つ目は「うみなかプレイパーク～みんなの遊び場～」でのプレイパークの整備と運営である。3つの取組の成果から、インクルーシブな遊び場には遊具等の整備だけでなく空間の設えや交流の機会の提供といったソフト面、利用者ニーズの把握と分析、地域との連携・協働やコミュニティ形成、担い手の育成等が重要であることが把握できた。今後も、誰もが安心して利用し、共に楽しめる遊び場の充足をエリア全体として図っていくためには、プレイカフェやプレイパークが、大型複合遊具等の周りの公園施設と互いに遊びや憩いの機能を補完し合って運営していくことが重要であるとの方向性が示された。

【キーワード】

都市公園, 国営公園, 管理運営, インクルーシブ, 遊び場, アンケート調査, 遊具, プレイパーク

シドニー市における樹冠被覆率を高める取り組み Initiatives to Increase Canopy Cover in the City of Sydney

嶺岸 さゆり
Sayuri MINEGISHI

【要旨】

シドニー市は、2008年以降一貫して樹冠被覆率を増加させている、オーストラリアでは数少ない自治体である。このシドニー市の樹冠被覆率を高める取り組みについて、文献とヒアリングにより調査を行った。シドニー市では、同じ部署でGISを活用した空間分析を行い樹木管理に関して戦略的に意思決定を行うとともに、分析結果をインタラクティブな形でコミュニティに情報提供していた。また、樹冠被覆率については、行政区域毎に示すのではなく、市内に基準点を100m間隔の格子状に配置し、その基準点を中心とした範囲を表示できる手法を独自に開発している。これにより、市民は身近な範囲の樹冠被覆地へのアクセスのしやすさを把握することができ、また、地域により偏りのある樹冠被覆地の分布の改善に向けて取り組んでいることが分かった。

【キーワード】

シドニー市、樹冠被覆率、アーバンフォレスト、気候変動、ヒートアイランド、健康

民族共生象徴空間における利用者アンケート調査の取組みについて Research on approaches to user questionnaire surveys in the National Ainu Museum and Park

尹 紋榮
Moonyoung YOON

【要旨】

本研究では、民族共生象徴空間において実施したアンケート回答数を確保するための取組みや、新たに導入したWEB方式と従来型の紙方式の利点と課題を把握することで、より効率的かつ確実なアンケート調査の実施方法に資する基礎的知見を得ることを目的とした。その結果、WEB方式導入によりアンケート回答全体の約8割がWEB方式となり、特にインバウンドの回答の9割以上がWEB方式となった。一方でWEB方式は自由回答の記入数が紙方式に比べ少ない、中学生以下、60代以上の回答割合が紙方式に比べ低いことも分かった。

【キーワード】

民族共生象徴空間、アンケート調査、WEB方式、紙方式、インバウンド対応

国営公園における植物発生材の処理・活用の取組み実態と課題 Current Situation and Issues of treatment and utilization of plant waste in National Government Parks

佐々木 圭
Kei SASAKI

【要旨】

都市公園の植物管理工事で発生する植物発生材は、適切なりサイクル処理により資源として活用することが必要である。国営公園においても、「緑のリサイクル」が運営維持管理業務に位置付けられる1)なか、複数の国営公園における緑のリサイクルの取組みの実態について比較整理した研究はない。そこで、本研究では国営公園4公園における現地調査から、植物発生材の処理・活用の取組み実態とその問題点を明らかにし、問題解決に向けた課題を提案することを目的とした。対象とした4公園では、主な取組みとして堆肥化が実施されていた。共通する問題点は製造した堆肥の余剰であり、課題は園内処理施設への搬入量削減の工夫と、継続的な活用に耐える品質確保の工夫である。

【キーワード】

国営公園、緑のリサイクル、堆肥化、資源循環型公園管理

都市公園の管理運営に関する協議会の実態調査
－令和4年度自主研究 公園管理運営実態調査より－

A Survey on Urban Park Management Council

平松 玲治

Reiji HIRAMATSU

【要旨】

公園管理運営研究所では、地方公共団体の公園担当者を対象として、アンケートによる令和4年度全国都市公園管理運営実態調査を行った。本論文では、調査結果から都市公園の管理運営に関する協議会の状況について概括した。協議会の導入に関しては、325箇所の地方公共団体のうち31箇所、46公園について回答があった。協議会に関する質問で最も多い回答結果は、導入している公園種別が広域公園、設置年度が平成18（2006）年度、設置目的が「市民等の意見を反映」、事業内容が「公園への参画・協働」、委員構成が「町会代表」、運営事務局が「指定管理者等」、年間開催回数が1回、設置のきっかけが「公園担当部署からの提案」、再整備への提案・参画の有無が「公園の再整備の予定は無い」であった。

【キーワード】

都市公園, 地方公共団体, 協議会, アンケート

奈良女子大学×平城宮跡歴史公園～おぎの美術館の取り組み～

Report on “The Amur-silver-grass Art Gallery”

: Nara Women’s University-Nara Palace Site Historical Park Collaborative Project

河井 藍季

Aki KAWAI

【要旨】

平城宮跡歴史公園は、歴史公園という特性上、公園利用者層は中高年層が多く、若年層が少ないことが課題の一つである。一方、本公園と奈良女子大学 生活環境学部は連携授業を実施しており、2020年に“平城宮跡を若者にとって魅力ある場所にすること”を目指す「平城宮跡アオハルデザインプロジェクト」が提案された。このプロジェクトの一環として、2022年秋・2023年秋に平城宮跡の豊かな自然を知ってもらうことを目的とした屋外美術館「おぎの美術館」を開催した。2022年の実施では「展示意図の発信方法」「ユニバーサルデザイン」が課題となったが、2023年は改善して実施した。結果、利用者アンケートでは前年度に比べ満足度が上がり、課題改善が達成されていることが分かった。今後の開催に向けては、学生との連携・協力体制の構築・整理が必要である。

【キーワード】

域学連携, 魅力発見, 魅力創出, おぎ, 若者, 屋外展示